

(2) 地震活動とテクトニクス

イランの南西側には、北東へ移動するアラビアプレートがユーラシアプレートに衝突することで、ザグロス山脈が形成されている。今回の地震の震源周辺 (ザグロス山脈周辺) は、この北東方向へ圧縮する力が働くことで、大きな被害が生じる地震がたびたび発生している領域である。

領域 b 内の過去の地震活動をみると、M7 クラスの地震がしばしば発生しており、数万人規模の死者が生じる地震もいくつか発生している。

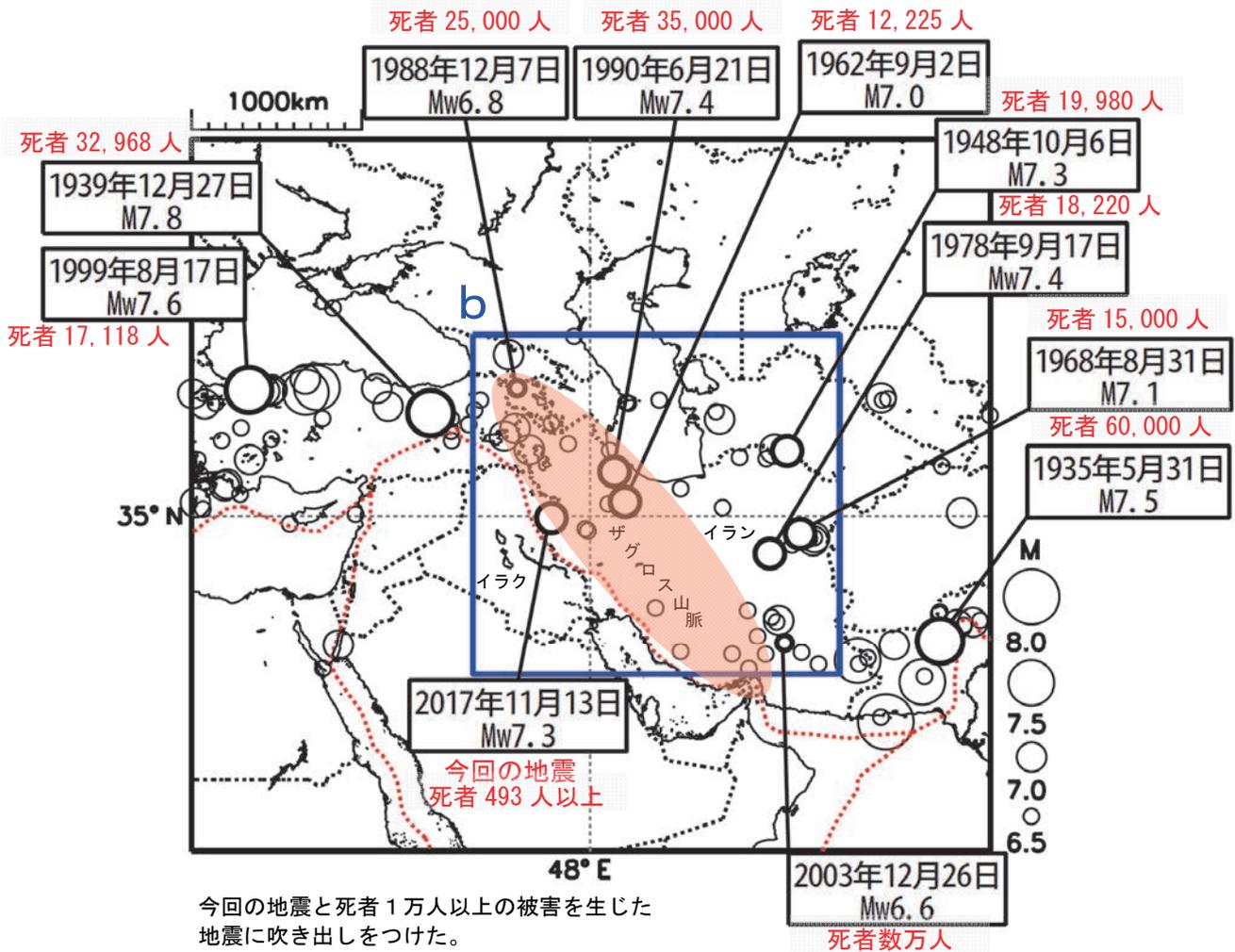


図 2-1 震央分布図 (1900 年 1 月 1 日～2017 年 11 月 30 日、深さ 0～100km、M≥6.5)

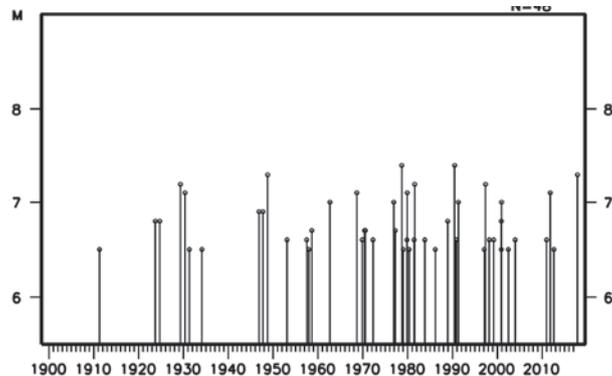


図 2-2 領域 b 内の M-T 図 (1900 年 1 月 1 日～2017 年 11 月 30 日)

※本資料中、1900 年～2009 年の震源要素は国際地震センター (ISC) による。2009 年以降の震源要素は USGS による。プレート境界の位置は Bird (2003) より引用。今回の地震の被害は OCHA (11 月 30 日現在)、その他の地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。